



公益財団法人
世界宗教者平和会議日本委員会

2022年度平和大学講座

戦争を超え、 和解へー諸宗教 は訴え行動する

ロシアによるウクライナ侵攻が始まって1年が経とうとしています。当事国同士の話し合いができないまま、戦闘は拡大して犠牲者は増え、周辺国に数多くの難民が逃れ、核兵器使用の危機まで取り沙汰されている状況です。

そうした状況を宗教の立場から打開しようと、世界宗教者平和会議（WCRP）国際委員会と同日本委員会は2022年9月、「戦争を超え、和解へ」というモットーの下、東京都内で14カ国の宗教指導者、政府関係者らが出席し、諸宗教平和円卓会議を開催しました。この円卓会議にはロシアとウクライナの代表も参加し、最後に共同声明を発表しました。共同声明では、癒しと赦しの必要性やすべての関係者が長期的な和解のプロセスに取り組むこと、紛争のすべての側から宗教指導者を招集して、諸宗教間の協力と平和を構築すること、私たちすべてが、人間の命の神聖さとすべての人々への愛を育み続けることが不可欠であると認めることが採択されました。

WCRP日本委員会平和研究所は2022年度のテーマとして「未来の地域社会の平和を目指してー非暴力による対立・分断をのりこえるための宗教者の行動ー」を掲げています。今回の平和大学講座では、上記の諸宗教平和円卓会議を受けて、諸宗教が紛争・戦争当事者を含め、平和のために何を訴え、どう行動していけばよいのか、皆様と共に考えてまいりたいと思います。



ZOOM
ミーティング



基調
発題

塩尻和子

筑波大学名誉教授



竹村牧男

東洋大学名誉教授



神谷昌道

ACRPシニア
アドバイザー



松井ケティ

清泉女子大学教授



田辺寿一郎

早稲田大学
留学センター講師



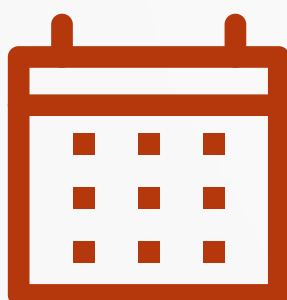
ウェブサイト

<https://www.wcrp.or.jp>



お電話

03-3384-2337



2023年3月14日（火）

14:00～17:00

お申込み▶

<https://us02web.zoom.us/j/8446121270>



プログラム (敬称略)

- 14:00 開会・平和の祈り
開会挨拶：竹村牧男（WCRP日本委員会理事・平和研究所
所長、東洋大学名誉教授）
- 14:10 基調発題：塩尻和子（筑波大学名誉教授）
—休憩—
- 15:25 パネルディスカッション
コーディネーター：竹村牧男
パネリスト：神谷昌道（ACRPシニアアドバイザー）
松井ケティ（清泉女子大学教授）
田辺寿一郎（早稲田大学留学センター講師）
- 16:25 質疑応答
- 16:50 閉会・平和の祈り
閉会挨拶：WCRP日本委員会役員



プロフィール

塩尻和子 Kazuko Shiojiri

東京大学大学院博士課程単位取得退学、博士（文学、東京大学）。筑波大学にて助教授、教授、北アフリカ研究センター長、理事・副学長（国際担当）を歴任。2011年4月から2019年3月まで東京国際大学にて特命教授・国際交流研究所長。現在は、2020年10月から一般財団法人昭和経済研究所「アラブ調査室」室長、筑波大学名誉教授を務める。専門分野は、宗教学、比較宗教学、イスラーム神学思想、宗教間対話、中東地域研究で、特にセム系一神教間の相互理解と平和的共存の構築に少しでも貢献したいと願って、比較宗教学に基づくイスラーム理解と宗教間対話の進展をライフワークにしている。

竹村牧男 Makio Takemura

東京大学文学部卒。同大学院印度哲学博士課程中退。文化庁宗務課専門職員、三重大学人文学部助教授、筑波大学教授（哲学・思想学系）等を経て、2002年、東洋大学文学部教授。2009年9月から2020年3月まで、東洋大学学長。現在、WCRP日本委員会理事、平和研究所所長、筑波大学名誉教授、東洋大学名誉教授。専門は、仏教学、宗教哲学。唯識思想研究で博士（文学）。主な著書に、『〈宗教〉の核心——西田幾多郎と鈴木大拙に学ぶ』（春秋社、2014年）、『ブディスト・エコロジー』（ノンブル社、2016年）、その他、多数。

神谷昌道 Masamichi Kamiya

1981年4月に立正佼成会入職。1987年5月、米国タフツ大学フレッチャー法律・外交大学院修士課程修了。専門は、核軍縮・国際組織法。世界宗教者平和会議（WCRP）国際事務総長補佐、副事務総長を歴任。1998年10月から2002年3月まで、広島市立大学広島平和研究所で特別研究員として勤務。2014年12月にアジア宗教者平和会議（ACRP）事務総長シニアアドバイザーに就任。共著に『21世紀の核軍縮—広島からの発信』（2002年9月 法律文化社）、また『軍縮辞典』（2015年10月 信山社）の共同執筆者。

松井ケティ Kathy Matsui

清泉女子大学地球市民学科教授。包括的平和学習、協調的コミュニケーション法を専門とする。主な社会活動は武力紛争予防のためのグローバル・パートナーシップ（GPPAC）平和教育ワーキンググループ、東北アジア地域平和構築インスティテュート（NARPI）と韓国ユネスコアジア太平洋国際理解教育センターと平和教育プロジェクトを実施している。また、WCRP（世界宗教者平和会議）日本委員会女性部会委員、和解の教育タスクフォース運営委員、平和研究所所員を務める。

田辺寿一郎 Juichiro Tanabe

2010年12月英国ブラッドフォード大学より博士号取得（平和学）。早稲田大学留学センター講師として、グローバル・スタディーズの教鞭をとるとともに、Global Leadership Fellows Programを担当。研究テーマは、仏教的平和論からのリベラルな平和論の批判研究。主な研究論文に、Buddhism and Peace Theory: Exploring a Buddhist Inner Peace (International Journal of Peace Studies 2016年), Buddhism and Post-Liberal Peace: Creating a Holistic Peace Model by Connecting Liberal Peace and Buddhist Peace as a Foundation for Sustainable Peace (Journal of Human Security Studies, Special Issue. 2020-1 2020年), Post-liberal Peace as Intercultural Philosophy (Social Ethics Society Journal of Applied Philosophy Special Issue 2022年)、その他、複数。